

# 図書館だより

# 70



## 英語多読、はじめました。

英語圏の子ども向け絵本のほか、英語学習者向けのレベル別読本を用意した「英語多読コーナー」を中央図書館に開設しました！

### 英語多読(たどく・Tadoku)とは？

やさしい絵本から読み始めて少しずつ文字の多い本へ移っていくと、やがてペーパーバックが楽しめるようになります。

さらに「話す」「書く」へも自然につながります。単語の暗記や学習法とはさようなら！だれでも「楽しく」ことばを獲得できる、それが多読です。  
(NPO多言語多読のホームページより)

### <多読三原則>とは？

- ①辞書はひかない
- ②わからないところは飛ばす
- ③合わないと思ったら投げる

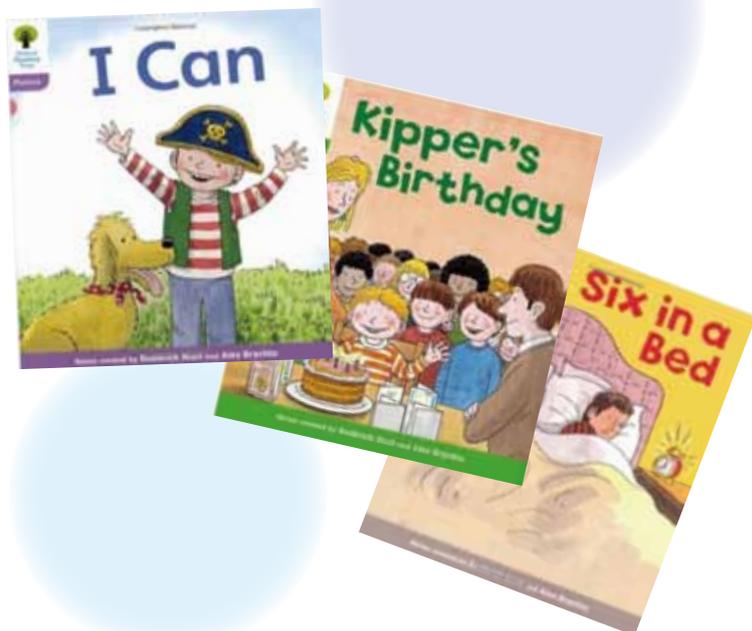
### 多読シリーズ紹介！

## 「Oxford Reading Tree」

オックスフォードのリーディングツリーシリーズは、イギリスの約80%の小学校が「国語」の教科書として使用している絵本です。

Kipper、Biff、Chip の3兄弟と愛犬のFloppyをめぐる物語を楽しみながら、ネイティブが使う自然な英語に触れることができるシリーズで、頻繁に使う表現が繰り返し登場するので、英語を「話す」に自然につながります。

ユニークなおチがあるストーリーと、隠れアイテムのめがねにも注目！



★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

## 英語多読はじめのいっぽ ～絵本から洋書へ～

平成30年2月10日  
ひばりが丘図書館講座室にて

英語多読コーナーの設置に先立って、講座「英語多読はじめのいっぽ～絵本から洋書へ～」を開催しました。講師にNPO多言語多読理事長・酒井邦秀先生をお招きし、大人から子どもまで楽しく英語と触れ合える「多読」についてお話していただきました。

当日は、実際に英語多読に使用する本を見ながら、参加者全員で多読を体験しました。

終始笑いの絶えない、楽しい講座となりました。



## 「中国語・韓国語できく いろんなことばでたのしむ おはなし会」

平成30年3月4日 谷戸図書館にて



中国語・韓国語を母語とする方によるおはなし会を開催しました。まずは、各言語でごあいさつ。最初は緊張気味だった子どもたちも一緒に声を出すことによりおはなしの世界へ入っていきました。

次に、日本でもよく知られた絵本を3冊、『ぐりとぐら』を「中国語」で、『ねずみくんのチョッキ』を「韓国語」で読み聞かせをしていただきました。『みんなうんち』では、1pずつ「韓国語」のあとに「日本語」で読みました。言葉の意味は分からなくとも、他言語が持つ響き、リズムに魅了され、参加者は次第に絵本の世界へ溶け込んでいきました。

図書館では韓国語・中国語の絵本の貸出しをしています。詳しくは各図書館へお問い合わせください。

### 今回のおはなし会で使用した本は…

『ぐりとぐら』(中川李枝子/さく 大村百合子/え 福音館書店)

『ねずみくんのチョッキ』(なかえよしを/作 上野紀子/絵 ポプラ社)

『みんなうんち』(五味太郎/さく 福音館書店)

## <西東京市図書館縁講演会> ゆかり 講師からのメッセージ

国文学者・民俗学者 東京学芸大学教授 いし い 石井 まさ み 正己さん

石井さんは、いつも身近で時流に即したテーマを打ち出し、根拠となる文学等作品を提示され、詳細な解説と考察をわかりやすく伝えてくださいます。新しい知識を得ることと同時に、現代の私たちがそこから何を受けとめ、どのように生きられるかを考えるための道しるべを示してくれます。

図書館では開館以来、西東京市出身や在住などが確認できた人物の著作あるいはその人物に関する資料を収集しています。縁の方による講演会も《西東京市図書館縁講演会》と銘打って開催しています。

21世紀に入って、国際化と情報化がこれまでにない勢いで進んでいます。町を歩けば至る所で外国人に会いますし、電車に乗れば多くの人がスマホに夢中です。しかし、大都会・東京でも少子化と高齢化が進み、緩やかに人口減時代を迎えると言われていています。これまで誰も経験したことの無い急激な変化を目の当たりにして、とまどっていらっしゃる方も多いでしょう。

私は大学で、『源氏物語』や『平家物語』などの古典文学を研究しています。しかし、若いときに民俗学に出会い、日本各地の古老を訪ねて、いろいろな話を聞いてきました。とりわけ熱心に読んだのが柳田国男の『遠野物語』や『雪国の春』でした。神や妖怪・幽霊と出会う話や東北地方の暮らしが丁寧に書かれていました。そんな世界に触れたいと思って、宮城県や岩手県の山村・漁村をずいぶん歩きました。

この方面の研究も進めてたくさん文章や著書を書きましたが、それとともに意識してきたのは、研究の成果をゆかりの場所でお話することでした。さまざまな図書館・博物館・公民館で、この地域にはこんな遺産があって、こんな価値を持つということを書きました。研究の成果を学界にとどめるのではなく、広く社会に還元したいという気持ちがあったからです。

そうした活動を続けてきた折も折、東日本大震災が起こって、親しく訪ねた地域は甚大な被害を受けました。実は、その前に、遠野や釜石の図書館では、『遠野物語』や『雪国の春』に明治三陸大津波の話があることを話していました。そのため、私の講演は命を救えただろうかと悩みました。あの3月に井上ひさし一周忌の追悼講演を行う予定だった釜石では今も毎年お話を続けていますが、復興に時間がかかっている大槌ではまだお話ができいません。

一方で、東日本大震災をきっかけに考えるようになったのは、私たちの暮らす東京のことでした。被災地から離れた東京でこの震災を他人事にしないためには、自らの問題としてとらえる必要があると考えました。そんな折に西東京市の図書館からご依頼がありましたので、2012年3月に「災害と民俗学」のお話をしました。NHKの「100分de名著」の放送を受けて、2014年10月からは3回「日本人はいかに生きてきたか―柳田国男『遠野物語』から考える―」を話しました。

保谷にあった民族学博物館の顕彰に関わってきたこともあって、2015年7月には、「西武鉄道100年と西東京市」のお話をしました。西東京市は鉄道とともに発展してきたことを、保谷と田無の違いを意識しつつ述べました。縁(ゆかり)の一人に選んでくださったこともあって、2017年3月には「『平家物語』の世界～切り絵作品とともに鑑賞する～」、2018年3月には「東京を目ざした明治の若者たち」のお話をしました。

20万人を超えた西東京市で暮らす意味を時代に即してお話することで、市民の皆様と図書館をつなぐ役割が果たせればと考えております。

石井 正己



# にんにんに西東京

## 第20回 「明治150年〜地租改正関連史料」

江戸から明治へと時代が移って150年。

新たな時代の制度改革の一つ、「地租改正」に関連する所蔵史料をご紹介します。



西東京市図書館キャラクター  
西都右京くん

明治新政府は、財政的な基礎をかため、産業の発達、文明の近代化、兵力の充実などを図るために土地制度の改革を行いました。

明治6年（1873）7月公布の地租改正法は、個人の土地所有と自由な売買を認め、所有権の証明として地券を発行し、土地所有者に納税義務を負わせました。年貢米などの物納を改め、収穫量に応じた地価の3%（明治10年に2.5%へ）を金納としました。これを地租改正と呼び、明治4年（1871）の廃藩置県直後から明治14年（1881）までの約10年間にわたり全国で実施、西東京市域では明治11年（1878）に完了しました。

地租改正作業は、「地引絵図」、「田畑其他反別等取調野帳」、「反別地価書上帳」、「地券台帳」を作成し「地券」を発行しています。

「地租改正絵図」 明治8年6月  
西東京市指定文化財第18号〈旧田無市域〉

「大絵図」 明治9年12月〈旧保谷市域〉

地引絵図と呼ばれるこの図は、現地を調査し帳簿と照合し課税対象を把握する目的があります。田無は当時所属する神奈川県からの布達と県の官員の指導、地租改正取調総代（下田半兵衛）を中心として事業を実施しました。旧田無の地域図3巻と東久留米市内にあった飛地の地図1巻、奥書1巻からなり、一筆毎の地目・地番・小家・道路・川・水路などが描かれています。

熊谷県から埼玉県へ編入された保谷でも布達を受けて作業を開始。旧保谷を描いた大絵図は、上保谷地域2点と下保谷地域2点、計4点が描かれています。

「田畑其他取調野帳」 明治9年5月

〈旧田無市域〉

十字法で新たにに丈量（測量）が行なわれ、「田畑其他取調野帳」が作成されました。字

毎の11分冊で、一筆毎に字名・地番・縦横・地目・反別・持主が記載されました。

「地価帳」年不詳〈旧田無市域〉

地価の調査結果が記載された帳簿で6字分（6冊）が確認できます。一筆毎に字名・地番・地目・反別・等級・地価・地租・持主が記載され、帳末には等級毎、反別総合計があります。地券台帳の基となる史料と思われれます。



地券 明治16年(1883)

## 図書館協議会報告 西東京市図書館の運営体制のあり方について

西東京市図書館では市の『第4次行財政改革大綱』の図書館に関する基本方針Ⅲ「効果的なサービス提供の仕組みづくり」への対応を検討しており、図書館協議会において、1年をかけて図書館の運営体制のあり方について協議をしてきました。

協議の中では、平成19年度の『図書館事業の見直し』以降10年間の図書館における取組みの検証とこれからの図書館に対する期待として、次の3点をあげています。

- ①長期的視野に立った資料の整備
- ②時代のニーズに応えるサービスの展開
- ③サービスのさらなる広がりに向けた取組み

協議の結果、この取組みを進めるためには、西東京市図書館のこれからの運営体制のあり方として、現行の司書を中核とする市職員と専門の嘱託員による運営体制の維持発展が適切であると提言が出されました。

今年度は図書館の運営体制のあり方で示された内容を踏まえ、図書館計画の策定を進めてまいります。



## 図書館利用者アンケートの結果について

西東京市図書館は、平成21年3月に「西東京市図書館基本計画・展望計画」（平成21年度～30年度）を策定しました。

前期の「基本計画」と後期の「展望計画」で構成され、本計画に基づいて図書館施策に取り組んでいます。平成29年度は、計画の最終年度を迎えるにあたり、次期図書館計画策定を見据えて、図書館利用者を対象としたアンケートを実施しました。アンケートについては、取り組んできた事業の成果と課題について調査し分析するとともに、利用者の意見や要望についても今後のサービス向上の取組みに役立ててまいります。

期 間	平成30年2月6日(火)から2月18日(日)
対 象	中学生以上の図書館利用者(来館者)
場 所	西東京市図書館(6館)
方 法	選択式アンケート調査
回 収	図書館内に設置した回収箱
回答者数	791人
調査項目	基本属性性別、住まい、登録、年代 利用について 利用館、利用時間帯、 サービス(認知度、期待値)



図書館協議会報告・アンケート結果ともに図書館ホームページで公表しています。

# 小さなアーティスト



「かみなりが落ちた!!」  
けやき小学校 6年

子どものころは本の虫で、毎日のように読んでいたものでした。おとなになって忙しくなると読書に充てる時間はなかなか取れなくなってしまいました。図書館からも次第に足が遠のいてしまいました。

子育ても一段落して再就職したばかりのころ、仕事に必要な情報を求めて職場近くの図書館に行くようになりました。偶然通りかかった文芸書の棚に、昔何度も読んだ本を見つけ、思わず手に取り開きました。懐かしいフレーズと共に、すっかり忘れていたワクワクドキドキの気持ちもよみがえってきました。早速何冊か借りて帰りました。1冊読み終える頃には活字中毒の出来上がり、すぐに図

書館のヘビーユーザーになりました。

新聞の書評欄などで気になる本を見つけると、ホームページで検索して予約します。ない場合はリクエストするのですが、リクエストされた本を購入する基準のようなものはあるのでしょうか。以前『これは絶対無理だろう』と思う本をダメ元でリクエストしてみたところ、購入してただけ驚いたことがあります。二人目の借り手が現れたのかどうか気になるところです。

いつもは予約本を受け取りに立ち寄るだけですが、次に訪ねるときは時間をかけて色々な棚をじっくり見てみたいと思います。どんな発見や出会いがあるか今から楽しみです。

利用者エッセイ

わたしと  
図書館

なが つか よし こ  
長塚佳子